

策定の目的

北陸新幹線敦賀開業に向け、利便性の高い地域交通ネットワークを実現するため、JR小浜線を軸とした嶺南地域の公共交通網形成計画を策定し、小浜線の利活用促進、小浜線の魅力向上、バス等との接続強化など、公共交通の利便性向上を図る。

基本目標

- 1 将来にわたって地域の足として持続可能な交通ネットワークの構築
- 2 北陸新幹線敦賀開業効果を嶺南地域全体に波及させるための利便性の高い二次交通の整備

計画期間 : 5年間

現状と課題

○地域における公共交通の状況

- ・小浜線を東西の軸として、通学や買い物、通院など、日常の市町間での移動や各市町内での移動が、より便利になる公共交通の運行方法等について検討が必要

《小浜線》

- ・利用客が固定化（定期利用者約7割）
- ・特定箇所の風雨規制でも全線運行停止する場合があります、影響大
- ・日中の便数が少ない

《バス等》

- ・生活圏（隣接市町）への移動が困難
- ・JR小浜線とバス等との接続が悪い

○観光周遊における現状

- ・より多くの集客を図るためには、周遊するのに不便な公共交通の改善が必要
- ・観光客には観光地と公共交通が分かりにくい。

観光客が嶺南地域を回る際の交通手段

《敦賀駅》

車 34.5% 小浜線、バス等 37.9% タクシー 12.1%

《車を選択した理由》

- 「行きたいところを回るのに便利」 53.6%
- 「ほかの手段が思いつかない」 40.6%
- 「電車・バス等はダイヤ等が不便」 14.5%

○住民の暮らしにおける現状

- ・地域住民には他市町のバス等が分かりにくく、利用するのに抵抗感がある。
- ・クルマ志向などを改善するため、交通手段選択の考え方、ライフスタイル等を変えるとともに、公共交通の利用に対する抵抗感の軽減が必要

《住民の鉄道やバス等に対する不満》

「使わないのでよく知らない」 約5～7割

《将来に向けた高校生の意識》

「公共交通と人が中心で、人がにぎわうまち」を望む生徒 57.5%

施策の方向性

日常の足としての  
公共交通の利便性向上

観光周遊に利用できる  
公共交通の確保

公共交通を中心とした  
まちづくりや  
ライフスタイルの定着

検討・実施する具体的な施策

1 公共交通の利便性向上

- ・小浜線の増便や利便性の高いダイヤの設定
- ・小浜線の敦賀～京都北部間の時間短縮
- ・小浜線の運休対策の強化
- ・市町を跨ぐ広域バスの運行
- ・小浜線運行に応じた接続するバスダイヤの調整
- ・キャッシュレス化の推進 等

2 まちづくりと連携した施策の展開

- ・駅周辺への都市機能、居住誘導
- ・待合環境の充実や駅のバリアフリー化 等

3 公共交通サービス情報の充実

- ・嶺南全域の公共交通マップの作成
- ・複数の市町を移動する人への案内の充実
- ・鉄道、バス、タクシー、レンタサイクル等の一体的な乗り継ぎサービスの提供 等

4 観光周遊手段の提供

- ・観光列車やイベント列車の運行
- ・特徴あるバス車両の導入
- ・小浜線とバスを乗り継いだ周遊きっぷの企画
- ・小浜線の駅からの移動手段の確保 等

5 公共交通利用を促進する意識の醸成

- ・住民、事業所向けのモビリティマネジメント
- ・住民等の鉄道やバス利用を促進する啓発活動 等